

## 【学校教育目標】

『丈夫な体と豊かな心をもって、意欲的にたくましく生きる子』

【学校教育目標を受けて重点的に育成を目指す資質・能力】

知識・技能	思考力・表現力・判断力	学びに向かう力 人間性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識</li> <li>○物事の間係を捉える力</li> <li>○知識を生かす力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を発見したり課題を認識したりする力</li> <li>○自分の学びをデザインする力(自律的な活動・自己統制する力)</li> <li>○様々な方法で自分の思いを伝える力(コミュニケーション力・記述力・説得力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いの良さを認め協働する力</li> <li>○続ける力</li> <li>○多様性を認める力</li> </ul>

【目指す学校像】

子供 自らの未来を力強く切り拓く力を身に付けることができる学校。  
 保護者 子供の現在・未来を、安心・信頼してまかせることのできる学校。  
 教職員 ワークライフバランスを考えながら、自らの未来に向かって学び続けることのできる学校。

【学校経営のキーワード】

共生

協働

表現

継続

### I 現状分析(学校教育目標達成に向けての課題)

- (1) 教員・保護者ともコミュニケーション能力や人間関係を育成する力の伸長を望んでおり、また、それらが苦手だと感じている児童も多い。
- (2) 教員・保護者とも表現することが課題であると考えており、苦手意識を持っている児童も多い。
- (3) 教員や各種テストの結果、思考力・判断力・表現力を身に付けさせることが経年の課題である。
- (4) 特定の体力要素について、経年での課題がある。
- (5) 教員の在校時間に課題がある。
- (6) 電子メディアに対する課題が経年で続いている。

### 登別中学校 目指す生徒像

自分の考えを深め、表現できる生徒  
 自他を大切にし、思いやりを持つ生徒  
 何事にも挑戦し、やり抜く生徒

### II 令和5年度の経営の重点(学校教育目標達成に向けた課題解決の方針)

子供たち・教職員・保護者が  
 「あす」を豊かにすることのできる学校づくり  
 ~地域と共に課題解決を目指す学校経営を通して~

### III 目指す学校像を達成するための8つの取組

- ① 確かな学力の向上
  - ア) 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進
  - イ) 個別最適な学びと協働的な学びの実現
  - ウ) 一人一台端末の環境整備に伴うICTを活用した授業力の向上
  - エ) 校内研修や学力向上委員会を中心とした組織的な方策の提言
  - オ) 授業改善や個に応じた指導に結びつく学力テスト等の分析
  - カ) スタートカリキュラムの改善・充実
  - キ) 中学校と連携した9年間を見通した学力向上策の改善・充実
  - ク) 英語・外国語教育の推進
  - ケ) 学びを確かなものにするための授業時数確保
  - コ) 保護者と連携した家庭での学習習慣の定着
  - サ) 子供の学びを確かなものにするカリキュラムマネジメント

- ② 豊かな人間性の向上
  - ア) 道徳教育
  - イ) 地域の教育力を活かした学びの推進
  - ウ) 読書活動
  - エ) 特別活動
  - オ) 生徒指導
  - カ) ジェンダーフリー

- ⑤ 特色ある教育活動の推進
  - ア) 地域と共にある特色ある教育活動の改善充実
  - イ) 総合的な学習の時間(アウトプットの充実)
  - ウ) 持続可能な行事の設定

- ④ 特別支援教育の充実
  - ア) 合理的配慮のPDCAサイクルの確立
  - イ) 教室環境のUD化
  - ウ) 情報の共有化
  - エ) 全スタッフによる組織的な関わりの強化

- ⑦ 教育環境の充実
  - ア) 学校安全
  - イ) 情報教育
  - ウ) 清潔感のある校内環境整備

- ③ たくましく生きるための健康や体力づくり
  - ア) 望ましい生活習慣の形成
  - イ) 健康・体力の向上策の立案と実践
  - ウ) 保健指導の充実による健康意識の向上

- ⑥ 開かれた学校づくりの推進
  - ア) 学校運営協議会や中学校と課題を共有した取組の推進
  - イ) 土曜授業等を活用した地域・保護者への学校公開の促進
  - ウ) 学校からの積極的な情報発信

- ⑧ 教職員のウェルビーイングを目指した働き方改革と人材育成
  - ア) コアチームの活動の推進
  - イ) キャリアステージに応じた研修
  - ウ) 教材備品等の管理・点検・活用の徹底
  - エ) 服務研修の充実

### IV 評価

学校評価、教職員自己評価、保護者・児童アンケート、全国学調、標準学力検査、チャレンジテスト、家庭学習調査、新体力テスト等